

実質賃金 昨年 0.9% 減

物価高で2年ぶり前年下回る

厚生労働省が7日発表し、下回りました。

含む「所定外給与」は5・

田でした。

た2022年の毎月勤労統計調査(速報値)によると、

0%、給与など「特別に支

同時に発表された22年12

基本給と残業代などを合わせた現金給与総額(名目賃

払われた給与」は5・1

月の実質賃金は、前年同月

に物価の変動を反映させた実質賃金は、前年比0

一方、実質賃金の算出に

プラスは22年3月以来、9

・9%減となりました。物

用いる同年の消費者物価

カ月ぶり。消費者物価指数

付かず、2年ぶりに前年を

除く総合)は3・0%上が

の伸び率は4・8%と引き

基本給中心の「所定内給

りました。食料品や電気・

賃金も4・8%上昇しまし

与」は1・2%、残業代を

ガスの上昇が響きまし

た。

た。就業形態別の名目賃

は、正社員ら一般労働者が

2・3%増の42万9449

円。パートタイム労働者は

2・6%増の10万2073

円でした。